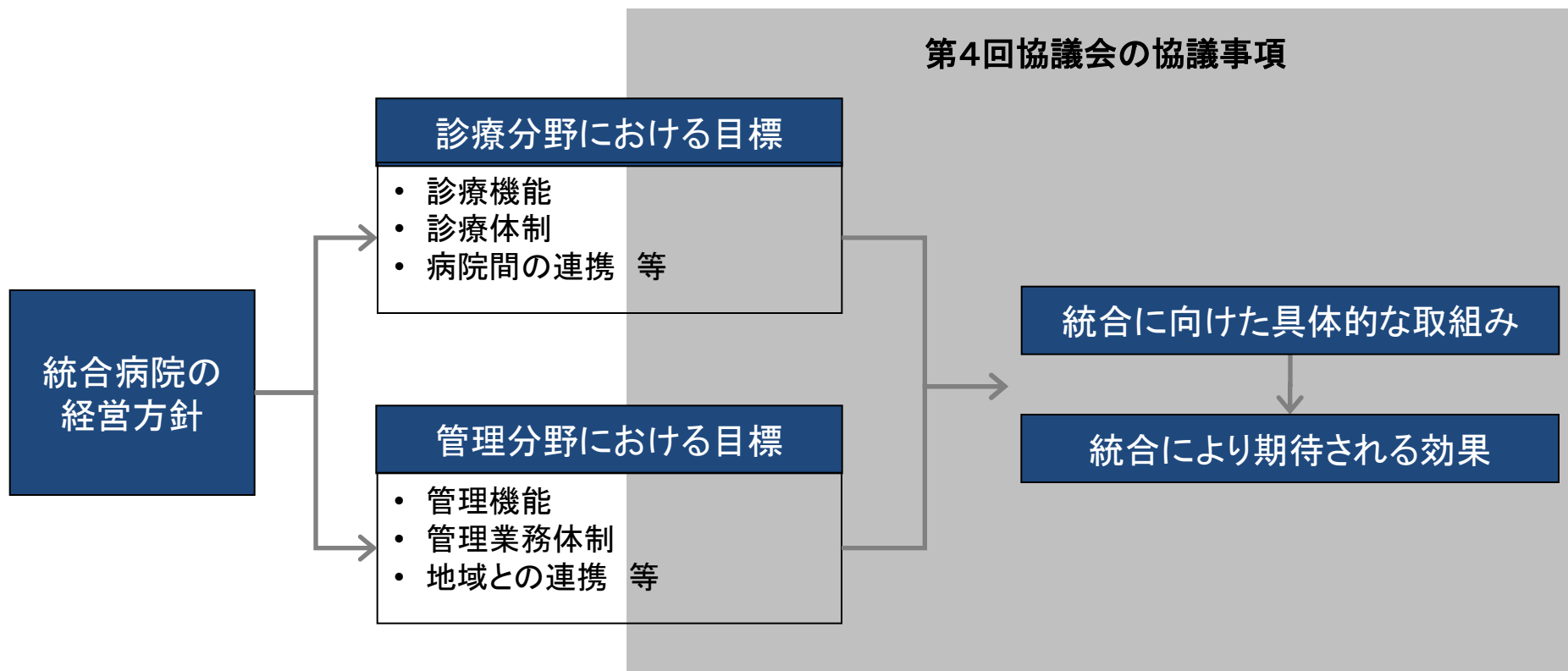


管理運営計画について

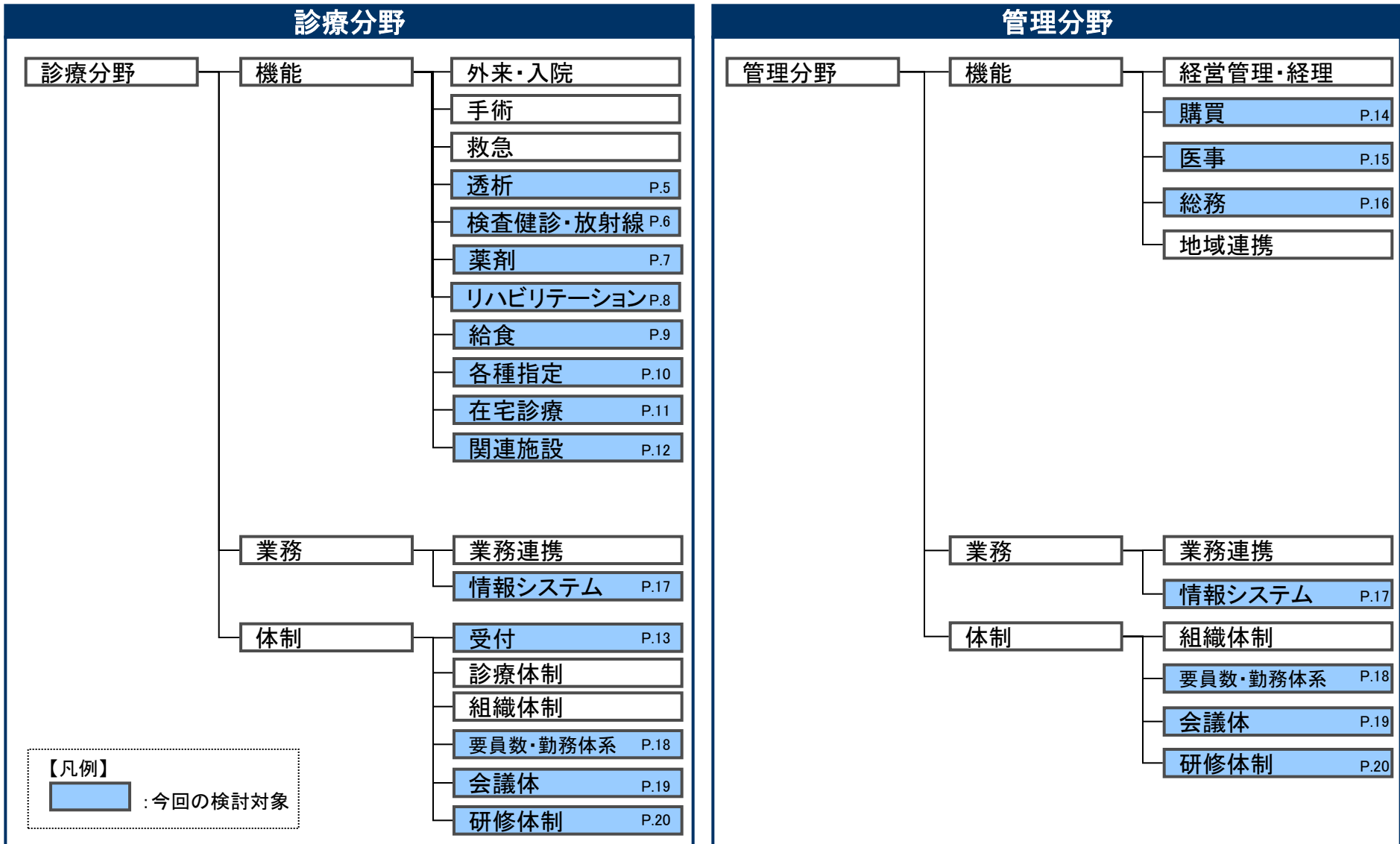
■ 管理運営計画の協議事項

管理運営計画では、統合病院の経営方針を定めた上で、これに基づき診療分野、管理分野における目標をそれぞれ定めます。その後、目標を達成するために必要となる具体的な取組みと、統合により期待される効果を定めていきます。



■ 診療分野・管理分野における目標 - 今回の検討対象 -

第3回協議会で協議しました項目以外について、今回の協議会にて検討いたします。



■ 目標 診療分野(透析)

- 【背景】 ● 市川三郷町立病院で透析を提供しており、市川三郷町立病院の強みの1つであり、多くの患者を抱えている
- 統合病院としても、今後収益源の1つとしていくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

- 導入透析、及び維持透析ともに提供している
- 市川三郷町立病院の強みの1つであり、患者も多数抱えている
- 透析に必要な医療機器の移動は難しい
- 提供体制
 - ・ 2透析日: 月・水・金
 - ・ 1透析日: 火・木・土

将来への考え方

- 現状、市川三郷町立病院の強みで患者を多数抱えていることもあり、統合病院としても今後引き続き力を入れていくべき分野である
- 統合病院として提供する主体は、既存患者の利便性や、既存の医療機器の移動の難しさを踏まえると、今後も市川三郷病院で提供していくことが望ましい

【目標】 **開院時** 透析機能の提供が市川三郷病院で行われている

開院後(短期)
開院後(中長期) 地域の状況や病院の実績等を踏まえ、施設改修や医療機器の買い替えを契機に見直しが適宜行われている

■ 目標 診療分野(検査健診・放射線)

- 【背景】 ● 両病院ともに、人間ドック、特定健診など健診機能を提供しており、鰺沢病院については健診車による健診も行っている
- 健診について病院にとって収益源となる要素の大きい分野であり、また今後もその提供を強化すべきと考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 放射線技師:3名、臨床検査技師:3名
- 人間ドック(2人/日)、特定健診、乳がん健診、子宮がん健診等
- 町の健診結果を基に再検査に訪れる患者も多い

社会保険鰺沢病院

- 放射線技師:5名、臨床検査技師:7名
- 人間ドック(5~6人/日)、特定健診、乳がん健診、子宮がん健診等
- 健診車は、ほぼ毎日午前中に出て健診を行っている
- 企業等へ営業すればもっと健診数は増やせる余地がある

- 検査については市川三郷病院は既存の機能を提供していく。富士川病院については検査機器の買い替えを進めながら機能を強化していく
- 人間ドックについては、設備面や医師数等を踏まえると、富士川病院で主に実施していくことが効率的と想定される
- その他一般健診等については、両町の住民に対する利便性を重視する点から、両病院にて実施していくことが必要である
- 富士川病院における富士川町民の健診をもっと増加させれば収益面の向上につながる

【目標】

開院時

- ・ CT、MRI、レントゲン検査、検体検査、心電図やエコー等の生理学的検査については、両病院とも既存の機能を提供していく
- ・ 健診については、人間ドックは富士川病院で主に実施されている。その他の健診は両病院で実施されている。健診車による健診は富士川病院にて実施されている

開院後(短期) 開院後(中長期)

- ・ 検査に必要な機器の買い替えが行われ、特に富士川病院については検査機能が強化されている
- ・ 健診について企業等へ積極的にPRすることで、健診数が増加している

■ 目標 診療分野(薬剤)

- 【背景】 ● 両病院それぞれで新薬を採用する方法が異なる。特に鰺沢病院は全社連の共同購入を活用している
- 統合後、仕入先を1本化することで仕入先に対する価格交渉力を持ち、コスト削減につなげていくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 薬事審議会にて新薬の採用を検討
- 価格面で安い上位2社と契約している
- 新薬を採用することでコスト削減につながっている

- 同一の薬剤に関する仕入先を1本化することで、仕入先との価格交渉力を高め、薬剤に関するコストの削減につなげていく
- 新薬採用の手順や、病院内で管理する薬剤の品目情報を共通化することで、統合病院としての情報管理を効率的におこなっていく必要がある

社会保険鰺沢病院

- 薬事委員会にて新薬の採用を検討
- 価格面で安い上位1社と契約している
- 全社連として共同購入しているものが多い(90%程度)

- 【目標】
- | | |
|-----|---|
| 開院時 | <ul style="list-style-type: none">・ 同一の薬剤に関する仕入が、両病院で同一の仕入先から行われている・ 新薬の採用にあたっての承認手続きが、両病院で共通化されている・ 薬剤に関する品目情報が、両病院で共通化されている |
|-----|---|

- | | |
|----------|---|
| 開院後(短期) | 地域の他医療機関との共同購入や、薬剤を使用時に費用計上する在庫管理方法(SPD)の活用検討等、薬剤に関するコストの削減に向けた取組みが行われている |
| 開院後(中長期) | |

■ 目標 診療分野(リハビリテーション)

- 【背景】 ● 市川三郷町立病院では回復期のリハ、鵜沢病院では急性期のリハを提供している
- 特に回復期のリハは地域としてもニーズがある分野であり、統合病院としても強化していく必要があると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 理学療法士:3名
- 回復期のリハを提供
- 人が足りていない状況。地域としてはまだまだ回復期リハのニーズはある。人を増やせば収益増につながる

社会保険鵜沢病院

- 理学療法士:4名
- 急性期のリハを提供
- 内科が再開すれば、脳血管リハの需要もでてくる

- 現状、市川三郷町立病院は回復期のリハ、鵜沢病院は急性期のリハを提供しており、役割分担ができている状態にあり、当面はそれぞれが担っている役割を維持していく
- 市川三郷病院については、地域のニーズがまだまだあることや、病院としての独自性を出していくことを踏まえると、将来的には回復期のリハの提供を拡大していくことが必要である

【目標】

開院時

- ・主に市川三郷病院で回復期のリハを中心に提供している
- ・ただし、富士川病院においては急性期のリハを提供している

開院後(短期)

人材の確保を行いながら、市川三郷病院の回復期リハの提供が拡大し収益の柱となっている(回復期リハ病棟の設置も含め検討)

【回復期リハビリテーション病棟入院料2の人員要件】

- ・専任医師1名以上、専従理学療法士2名以上、作業療法士1名以上
- ・看護配置15:1以上、 ※回復期リハビリテーション病棟入院料2の病棟入院料/日:1,750点

※専従:原則として該当する業務のみを行う

専任:専ら該当する業務を行うが、それ以外の業務もある程度まで行える

開院後(中長期)

地域の状況や病院としての実績を踏まえ、リハビリテーションにおける両病院間の役割分担の見直しが適宜行われている

■ 目標 診療分野(給食)

- 【背景】
- 病棟への食事提供について市川三郷町立病院では直営で行っているのに対し、鵜沢病院では全て外部へ業務委託を行っている
 - 鵜沢病院では栄養サポートチームによる栄養管理を行っていたが(現在は形骸化している)、今後は急性期の術後管理として十分に行っていく必要あると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 直営で行っており、業務委託は行っていない
- 病棟の栄養管理は行っていない
- 仕入先は町内の業者が多い

- 栄養サポートチームを採用し、病棟の栄養管理を行うことで患者にとって満足のいく食事提供を行う必要がある(特に急性期の術後管理として栄養計画で寄与していく)
- 食材の仕入先については、安全でかつ安価に仕入れられるよう、場合によっては仕入先の見直しの検討も必要である

社会保険鵜沢病院

- 全て業務委託している(委託先:日清フーズ)
- 栄養サポートチーム(NST)を取り入れ、病棟の栄養管理を行っているが、内科の医師が抜けてからは形骸化している

- 【目標】
- 開院時**
 - ・ 入院患者に対し、特に急性期の術後管理として、栄養サポートチームによる栄養管理が行われている
 - ・ 業務については現状通り、市川三郷病院では直営、富士川病院では委託で行っている
 - 開院後(短期)**
開院後(中長期)
 - ・ 食材費等の状況を踏まえた上で仕入先や業務委託について見直しが適宜行われている

■ 目標 診療分野(各種指定)

- 【背景】 ● 市川三郷町立病院は救急告示病院、へき地医療拠点病院、鯉沢病院は救急告示病院、地域災害拠点病院の指定をそれぞれ受けている
- 地域のニーズ等を踏まえ、今後も引き続きこれらの指定病院として運営を継続していく必要があると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 救急告示病院
- へき地医療拠点病院
- へき地医療については、週2回医師1名看護師1名が回る形で対応している

- 救急、へき地医療、災害拠点といった地域のニーズが高い分野であること、また、診療報酬や交付税の優遇を受けられることから、今後も引き続き指定病院として運営を継続する必要がある
- ただし、開院後の地域の状況の変化や実績に応じて見直しも必要である

社会保険鯉沢病院

- 救急告示病院
- 地域災害拠点病院

- 【目標】
- | | |
|---------------------|--|
| 開院時 | ・市川三郷病院は救急告示病院・へき地医療拠点病院として期待される機能を維持している
・富士川病院は救急告示病院・地域災害拠点病院として期待される機能を維持している |
| 開院後(短期)
開院後(中長期) | 地域の状況や病院の実績に応じて適宜見直しが行われている |

■ 目標 診療分野(在宅診療)

- 【背景】 ● 在宅診療は地域としてのニーズが特に高い分野であるが、両病院ともに十分に応えられていない
- 統合病院が地域の住民との結びつきが強い病院となるためは、地域のニーズに応えられるよう、特に老人に対するケアを中心として在宅診療分野についてこれまで以上の機能提供が必要であると考えられる。

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

市川三郷町立病院

- 医師がある程度の人数がいた頃は、在宅診療を行っていた
- 開業医とのすみ分けの点からも難しい状況
- 地域としてのニーズは高いと考えている

社会保険鵜沢病院

- 10年ほど前は在宅診療を行っていたが、現在はそれを担うだけの人手が足りない
- 地域としてのニーズは高いと考えている

将来への考え方

- 高齢化が進む地域として、特にニーズの高い分野である。市川三郷病院を総合診療型病院として、単に病院での診療にとどまるのではなく、在宅診療まで幅を伸ばすことで地域のニーズに応えていくことが必要である
- 高齢化が進む地域として、老人に多くみられる疾患の需要が今後も拡大していくことが予想される。この点について重点的にケアしていくことが必要である(認知症対応など)
【認知症サポート医の役割】
かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役・アドバイザーとなるほか、他の認知症サポート医(推進医師)との連携体制の構築など
※峡南地域には現在3名の認知症サポート医がいる
- また、地域の開業医も手が足りない状況であり、地域の開業医との連携を図ることが必要である

- 【目標】
- | | |
|---------------------|--|
| 開院時 | 市川三郷病院に「在宅診療部」を設置し、在宅診療支援の強化に向けた準備ができている |
| 開院後(短期)
開院後(中長期) | <ul style="list-style-type: none">・地域の開業医との連携を図り、市川三郷病院から退院した患者を中心に在宅診療支援が行われている・市川三郷病院に勤務する医師が認知症サポート医の登録を行い、認知症のサポート(初期診断と専門医への紹介)を行うことで、精神科に近い役割を担っている・地域の状況等を踏まえ、在宅診療部の提供機能や体制について適宜見直しが行われている |

■ 目標 診療分野(関連施設(老健))

- 【背景】 ● 両病院それぞれで介護老人保健施設(老健)が病院に併設され、両老健ともに90%以上の平均入所率となっており、需要は大きい状況にある
- 老健が病院に併設されていることにより、老健の入所者の容態が悪化したときに隣にある病院に入院して治療・検査を受けられることや、病院退院後、老健施設でリハビリを行うなどしながら在宅療養への復帰準備をすることができるなど、入院患者を段階的に自宅復帰させることができることから、統合病院としても引き続き運営を継続していくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 平均入所率:92.9% 平均通所率:45.4% (平成23年度)
- 当期純利益:-4,789千円 負債:8.8億円 (平成23年度)
- 病院からの退院後、すぐに自宅へ戻すことができない患者のことを考えると、老健が病院と併設している意味は大きい

社会保険鵜沢病院

- 平均入所率:92.9% 平均通所率:78.9% (平成23年度)
- 当期純利益:18,195千円 負債:0円 (平成23年度)
- 老健側からみても病院とつながっていることは、入所者の万が一の場合の対応といった点で非常に有益である

- 現状、平均入所率からみても、地域の老健施設に対する需要は大きく、統合病院が今後、地域住民との結びつきのより強い医療機関となるためには、現在の老健を引き続き運営していくことが期待される
- また、老健施設が病院と併設していることにより、患者の入院から自宅への復帰までを1つの医療機関として段階的にサポートできる点も患者にとって統合病院が頼りにされる存在となることにつながる
- 市川三郷の老健は赤字で負債も大きく経営を圧迫しているが、地域との結びつきの強い医療機関を目指すためには統合病院として引き継いでいく必要がある

【目標】

(「財務会計計画」の項目において、別途検討を行う)

■ 目標 診療分野(受付)

- 【背景】 ● 市川三郷町立病院、鯉沢病院ともに、外来の受付は業務委託を行っている(委託先は両病院ともにニチイ)
- 統合後は、受付業務についても両病院で同じ仕組みで行っていくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 外来の受付は外来係(委託先:ニチイ)が行っている
- 入院の受入事務について、事務処理についても一部看護師が行っており、看護師に負担がかかっている場合がある

- 両病院が統合された1つの病院であることを患者に認識してもらうためにも、患者にとって最初の窓口となる受付においては、両病院で仕組みを統一することが必要である
- 両病院を管理する上でも、受付の仕組みや受付担当者の職務範囲を合わせていくことで効率的に管理することができる

社会保険鯉沢病院

- 外来の受付は医事課(委託先:ニチイ)が行っている

【目標】

開院時

- ・ 外来・入院を問わず、両病院ともに同一の流れで患者の受付が行われている
- ・ 受付業務における医事担当と看護師との役割分担が両病院で共通になっている
- ・ 開院時まで、両病院間で患者を認識するためのIDが共通化され、患者情報が共有化されている
- ・ 開院後、最初の診療までに、患者が新しい診察券を使えるようになっている

開院後(短期) 開院後(中長期)

- ・ 患者の受付業務について改善が行われ、効率的な受付体制が確立されている

■ 目標 管理分野(購買)

- 【背景】 ● 両病院それぞれで、物品の購入に関する手順や物品の管理方法は異なる
- また、手順や管理方法について、ルールが一部不明確な点もあり、今回の統合を契機として両病院で共通のルールを定めていくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 各部門からの申請を総務係で受け付け、事務長が決裁する。医療機器については院長の決裁となる
- 130万円を超える物品については、入札方式を採用している

- 物品購入の手順や購入後の管理方法を両病院で統一していくことで、物品情報の管理や業務処理の面で効率化を図ることができる
- まだまだ物品購入において無駄がある状況であり、購買に関する申請のルールを厳格化することで経費の削減を行える余地があると想定される

社会保険鵜沢病院

- 各部門からの申請を施設課で受け付け、事務長が決裁する。医療機器については院長の決裁となる
- 事務用品等で無駄な物品購入もある状況である

- 【目標】
- 開院時** 物品の購入に関する申請・承認手順、及び購入後の物品の管理方法(固定資産台帳の様式や資産管理番号のルール)が両病院で共通化されている
 - 開院後(短期)** 経費の節減を目的として物品の購入に関する申請ルールが厳格化されている
 - 開院後(中長期)** 効率的な業務を行うことを目的として、物品の購入に関する申請・承認手順、及び物品の管理方法について改善が行われている

■ 目標 管理分野(医事)

- 【背景】 ● 診療報酬の請求については、査定減を減らす取組みを行うことで病院の収益を増加させられる余地はある
- 患者の診療データ等、両病院で共通化を図ることにより、患者にとって利便性を向上させることができる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

両院共通

- 診療報酬の請求については毎月、保健委員会ないしは医事業務委員会を開催し、医師や看護師、コメディカルに対して情報共有を行っている
 - レセプトの書き方をより改善することで診療報酬の査定減を防ぐことができる可能性がある
- 診療報酬の請求については、両病院で過去事例等を持ち寄り勉強会を開き情報共有、及び改善案の検討を行うことで診療報酬の査定減を減らすことができる
 - その他、保険診療外の収入や、患者の診療データ等については、患者に不安や不便を生じさせないためにも早期に統一化していくことが必要である

【目標】

開院時

- ・ 診療報酬の請求について、請求の手順が共通化されている。また、両病院で定期的に勉強会を行い、改善策が検討されている
- ・ 保険診療外の収入について、両病院で統一基準の価格体系により提供されている
- ・ 患者の診療データについて、両病院の統一IDで管理されている

開院後(短期) 開院後(中長期)

- ・ 診療報酬の請求について、両病院で定期的に勉強会を行い、診療報酬の査定減が減少し適切な診療報酬を得られている
- ・ 患者の診療データの管理等、医事業務全般において、手順や管理方法、帳票等の改善が行われている

■ 目標 管理分野(総務)

【背景】 ● 両病院それぞれで、職員の勤怠管理の方法等やり方は異なる

- 総務に関する業務については勤怠管理等、そのやり方を両病院で合わせていくことで両病院の情報を一元的に管理していくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

市川三郷町立病院

- 職員の勤怠管理は、出勤簿に印鑑を押す形式を採っている
- 業務委託等の契約手続きの決裁は、原則として事務長

社会保険鵜沢病院

- 職員の勤怠管理は、出勤簿に印鑑を押す形式を採っている
- 業務委託等の契約手続きの決裁権限について一部不明確になっている

将来への考え方

- 勤怠情報等、両病院の職員の情報を一元的に管理していくことで、それぞれの病院に所属する職員の勤務状況等を比較し、病院経営の判断材料とすることができる
- 例規等の規定を早期に統一を図ることで、統合病院としての1つの組織文化の形成につながる

【目標】

開院時

- ・ 勤怠管理の方法について、両病院共通の方法(手順や帳票等)で運用されている
- ・ 各種契約手続きについて、決裁権限の帰属が設定され、両病院共通の方法で運用されている
- ・ 例規等が両病院で統一化され運用されている

開院後(短期) 開院後(中長期)

- ・ 勤怠管理の方法等、総務業務全般において、手順や管理方法、帳票等の改善が行われている
- ・ 例規等について、開院後の実態を踏まえた上で見直しが行われている

■ 目標 診療分野・管理分野共通(情報システム)

- 【背景】 ● 各業務で使われている情報システムは両病院でそれぞれ異なる
- これら情報システムについては早期に両病院間で共通化を図り、業務の効率化を図っていくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 医事会計システム: YCC
- 財務会計システム: 医療大臣(応研)
- 給与計算システム、グループウェア: 町役場のシステム

社会保険齋沢病院

- 医事会計システム: 東芝
- 財務会計システム: ICS
- 給与計算システム: アシスト
- グループウェア: 利用無し

- 電子カルテや医事会計といった直接患者に関連する分野だけでなく、財務会計や給与計算といった組織の内部処理に関連する分野においても早期に情報システムを共通化していくことで、効率的に業務を行うことができる
- 特に電子カルテシステムは山梨大学と連携されることで、患者にとってもまた医師等病院で働く職員にとってもメリットとなる

- 【目標】
- | | |
|---------------------|---|
| 開院時 | <ul style="list-style-type: none">・ 両病院の情報システム(電子カルテシステム、医事会計システム、財務会計システム、勤怠管理・給与計算システム、グループウェア)について、共通化されている・ 電子カルテシステムについては、山梨大学と連携されている・ 地域の他医療機関との間で患者情報が共有されている |
| 開院後(短期)
開院後(中長期) | <ul style="list-style-type: none">・ 追加で必要な情報システムについて導入検討がなされている・ 開院後の日々の業務での使い勝手等を踏まえ、情報システムの改修が行われている・ 地域の他医療機関との情報連携が拡大している(開業医との間での情報連携など) |

■ 目標 診療分野・管理分野共通(要員数・勤務体系)

- 【背景】 ● 両病院ともに、現状の機能を満足に提供するにあたっては、医師をはじめとして職員が不足している状況にある
- 統合にあたっては、医師や看護師の増員を行うことで統合病院として目標とする診療機能の提供を十分に行っていく体制を構築する必要があると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

市川三郷町立病院

- 常勤職員:97名
(医師8名 看護職51名 コメディカル20名 技能労務職8名 事務職10名)
- 非常勤職員:66名
(医師40名 看護職18名 コメディカル8名)
- 当直体制:午後5時から午前8時まで医師1名、看護師1名、事務1名

社会保険鯉沢病院

- 常勤職員:108名
(医師9名 看護職61名 コメディカル23名 事務職15名)
- 非常勤職員:64名
(医師44名 看護職9名 コメディカル8名 技能労務職3名)
- 当直体制:午後5時15分から午前8時30分まで、医師1名、看護師1名、事務1名

将来への考え方

- 統合病院として目標とする診療機能の提供を行う上で十分な要員が必要である
- 医師や看護師の確保にむけては、過度に負担がかからない当直等の勤務体系を整備する、また女性医師や女性看護師が働きやすい環境を確保する(保育所等)などして、職員にとって働きやすい病院となる必要がある

- 【目標】 **開院時**
- ・ 統合病院として目標とする診療機能を十分に提供できる職員数が確保されている
 - ・ 職員が働く上で過度に負担がかからない当直等の勤務体系が整備されている

- 開院後(短期)**
開院後(中長期)
- ・ 統合後の状況を踏まえ、必要職員数について適宜見直しが行われている
 - ・ 統合後の状況を踏まえ、職員にとって働きやすい環境がどんな環境であるかを把握され、働きやすい病院に向けた改善が行われている

■ 目標 診療分野・管理分野共通(会議体)

- 【背景】 ● 両病院それぞれで法的・非法的な委員会が開催されているが、両院ともに報告のみにとどまっており、活発な意見が出る場にはなっていない
- 統合にあたり、委員会の目的や名称を整理した上で、各委員会をより活発な場としていくことが必要であると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 診療科会議、安全対策委員会、院内感染防止対策委員会、保険委員会、薬事審議会、物品管理委員会等、2会議12委員会を実施
- 各委員会においては、活発な意見が出てくることは少なく、報告のみにとどまっている場合が多い

- 委員会の名称、目的を両病院で統一し、両病院それぞれで行うものと、両病院全体として行うものに区分することが必要である
- 委員会を単に形式的に行う場とするのではなく、病院運営の改善にむけて実のある場とすることが必要である

社会保険鵜沢病院

- 病院改善委員会、安全管理対策委員会、院内感染対策委員会、薬事委員会、倫理委員会等、20委員会6連絡会を実施
- 経営報告など、報告のみで改善に活かされていない

- 【目標】
- | | |
|---------------------|---|
| 開院時 | 法律上設置が必要な委員会(安全管理対策や院内感染対策)、及び法律上設置が必要とされないまでも病院の運営上必要な委員会が、両病院で同一の名称、同一の目的の上で、両病院それぞれ、もしくは両病院全体として行われている |
| 開院後(短期)
開院後(中長期) | 各委員会の進め方について改善がなされ、病院運営に向けて活発な意見が出る場となっている |

■ 目標 診療分野・管理分野共通(研修体制)

- 【背景】 ● 鵜沢病院では全社連の研修プログラムを活用できることもあり研修メニューは充実しているが、市川三郷町立病院では職員の研修への参加はあまり活発ではない
- 統合にあたり、研修メニューを整理し、職員のスキル向上の意欲に応えられる体制を整える必要があると考えられる

現状と課題(データ・医療現場の意見から)

将来への考え方

市川三郷町立病院

- 研修への参加はあまり活発ではない
- 看護部門では看護研修の発表などを定期的実施している

社会保険鵜沢病院

- 全社連の研修プログラムを活用できるため、研修環境は充実している
- 経営分析に関する研修があればよいと考えている

- 両病院で共通の研修メニューを整備する必要がある
- 全社連の研修を今後も利用できるのであれば利用するなど、院内での研修の提供には限界があると考えられるため、外部研修の活用を主体として研修メニューを整備する
- 職員のスキル向上の意欲を高めるためにも、病院として最大限サポートすることが必要である

- 【目標】
- | | |
|---------------------|--|
| 開院時 | 診療分野・管理分野それぞれで、各職種のスキル向上に向けた研修メニューが病院内の研修及び外部研修の活用により両病院で共通の研修メニューが整備されている |
| 開院後(短期)
開院後(中長期) | 研修を受けた職員からの評価をもとに、研修メニューが見直されており、研修を受けることにより職員のスキル向上につながっている |

具体的な取組み・期待される効果
